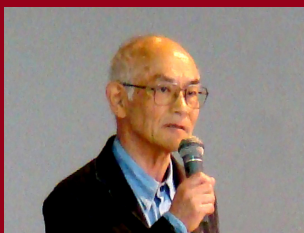
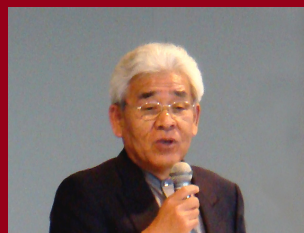


## 車座の会：デザイン科学の枠組み構築に向けて

2008年4月18日(金)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「車座の会：デザイン科学の枠組み構築に向けて」が開催されました。本活動におきましては、はじめに、日本デザイン学会 デザイン理論・方法論研究部会(DTM)の前身であるデザイン方法論部会の主査を務められました古屋繁先生より、ご挨拶およびDTMの今後の発展に向けたエールをいただきました。つぎに、松岡より、DTMの趣旨および今後の活動方針の紹介が行われ、デザイン科学の枠組みづくりとそれに基づくデザイン理論・方法論の基盤構築に関する説明を行いました。また、本活動には、DTMのアドバイザーボードである森典彦先生ならびに青木弘行先生にお越しいただき、デザインの核となる理論・方法論の必要性、多様なデザインにまたがる柱(理論・方法論)の必要性などを述べていただきました。そして、外部からは、経済産業省製造産業局 デザイン・人間生活システム政策室室長補佐の諸永裕一氏他2名の方、ならびに社団法人日本インテリアデザイナー協会(JIDA)会長の浅香嵩氏にお越しいただき、DTMの今後の活動への期待を述べていただきました。さいごに、ご参加いただきましたデザインに関わる研究・教育者の方々(学芸大・慶應大・拓殖大・千葉工大・筑波大・長岡造形大・名古屋市立大・武蔵工大・武蔵野美大・山口大)、実務者の方々(エクスカル・エンジニアスジャパン・大倉富美雄デザイン事務所・キヤノン電子・共立出版・ジャストシステム・東芝・東芝テック・日立インターメディアック・日産・ホロンクリエイト・ムーブ・レノボ)より、DTMに対する期待や思いを述べていただき、学生を含む約80名の参加者による活発なディスカッションが行われました。あいにくの悪天候のなか本活動にご参加いただき、貴重なご意見を賜りました皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



森典彦先生による講演の様子



村上存先生による講演の様子



会場の様子